

令和5年度 学校経営方針

京都市立花背小中学校

【学校教育目標】

「確かな学力、豊かな心、健やかな体」を身に付け、次代を生き抜く子どもの育成
－ 郷土を愛する子どもを地域とともに育てる －

【目指す子ども像】

- 「目標に向け、自ら学び、よく考え、進んで実行する子」
- 「自然を愛し、郷土を愛し、人を愛する子」
- 「心豊かに、集団や社会の中でたくましく生きていく子」
- 「誰に対しても、思いやりをもって関わることができる子」
- 「多様な他者と協働し、主体的に挑戦する子」

【「目指す子ども像」を実現するための具体的な意識・行動】

- ・心を込めた「挨拶」がしっかりできる。 <信頼関係の築き>
- ・正しく丁寧な言葉遣いができる。 <相手を尊重し合い高め合う集団>
- ・授業は集中して真剣に取り組むことができる。 <学習規律の徹底>
- ・相手の意見を聴き、自分の意見が発表できる。 <言語活動の質の向上>
- ・家庭学習がしっかりできる。 <一人一人の学力向上>
- ・自分や仲間のよさを認め合うことができる。 <集団の質の向上>

【育成を目指す資質・能力】

- 「自ら学ぶ力」「豊かな人間性と社会性」「健康で充実した生活を営もうとする力」
- ※あらゆる教育活動を通じて、一体的に育む

【目指す学校像】

- ・へき地小規模校ならびに施設一体型義務教育学校としての特色をいかした、子どもが自分らしさを存分に発揮し、生き生きと学び合う学校
- ・子どもの可能性を最大限に伸ばし、希望する進路が実現できる学校
- ・地域の宝であり未来の担い手である子どもをまん中にした、地域や家庭とつながり合い、信頼される学校

【目指す教職員像】

- ・人間性や創造性、専門性を高めるために自ら学び続け、子どもとともに育つ教職員
- ・「校種や教科の枠」「経験年数」「歴任校」等の違いを組織としての豊かさに変え、協働し新しいことに挑戦する教職員
- ・地域や家庭と連携・協働しながら、「目指す子ども像」の具現化に向けて全力で取り組む教職員
- ・すべての教育活動や学校運営の充実のため、健康保持・増進に積極的に取り組む教職員

【具体的な取組】

- ・義務教育9年間を見通した小中一貫カリキュラムのもと、へき地小規模校の特色をいかした教育課程（花背学習、金管バンド、ことば学習、そろばん学習、英語教育、スキー学習等）を編成する。
- ・校務分掌や研究組織等、小中の教職員が一体となり有機的に機能する組織体制を構築する。
- ・理論研修や研究実践を通して、へき地教育ならびに小中一貫教育についての理解の深化と実践力の向上を図る。
- ・地域や家庭と連携・協働し、地域の未来を見据えた「地域ぐるみの学校づくり」を推進する。
- ・隣接する保育施設と連携・協働した取組を通して、「架け橋期」の教育の充実を図る。
- ・ICTの活用をはじめとした校務の効率化の推進、日々の業務の見直しを恒常的に行う。

◆◇「確かな学力」の育成に向けて ◇◇

【重点目標】

「主体的・対話的で深い学び」を重視した日々の授業を核に、家庭学習との連動を通して、「自ら学ぶ力」を育成する。

【具体的な取組】

- ・学校全体で組織的・継続的な授業改善に取り組む。
 - ⇒「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業を展開し、意欲的な学びを引き出す。
- ・小規模校・少人数校の特性をいかした授業改善に取り組む。
 - ⇒個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- ・義務教育学校としての特性をいかし、専科指導・教科担任制を推進する。
 - ⇒内容の系統性や前期課程と後期課程の円滑な接続を意識した学習内容の重点化を図る。
- ・学校全体で「全国学力・学習状況調査」や「京都市小中一貫学習支援プログラム」の結果分析を行い、授業改善につなげる。
 - ⇒義務教育学校・小規模校としての成果を明らかにし、「指導と評価の一体化」の充実を図る。
- ・遠隔における双方向での授業等のICTを積極的・効果的に活用した教育活動を行う。
 - ⇒へき地小規模校が抱える課題解消の手立ての一つとして。
- ・授業と連動させた学習内容やICTの活用等の9年間を見通した系統性、計画性のある家庭学習指導を行う。
 - ⇒自学自習の習慣化を図る。
- ・学校図書館の活用ならびに連動した読書活動を推進する。
 - ⇒言語能力を培うとともに多様な価値と出会わせる。
- ・「花背学習（総合的な学習の時間）」を軸とした9年間を見通した系統的な探究学習を推進する。
 - ⇒自ら課題や疑問点を設定し、調べ、解決しようとする「探究する力」を身に付けさせる。

◆◇「豊かな心」の育成に向けて ◇◇

【重点目標】

自他を大切にし、他者との絆を深めながら、「豊かな人間性と社会性」を育む。

【具体的な取組】

- ・9年間を見通した系統的かつ計画的な「人権に関する指導」を行う。
 - ⇒生活の中で人権を尊重した判断・行動ができるように、各テーマにもとづき子どもの発達段階に

応じた指導を進める。

- ・道徳教育について、計画的な「道徳」の公開授業の実施やホームページ、学校だより等による情報発信を行う。
 - ⇒家庭や地域社会との共通理解、連携を深める。
- ・動物や植物が身近にある豊かな自然をもつ地域環境をいかした取組を行う。
 - ⇒命の温もりや尊さ、自然の偉大さを感じさせる。
- ・あいさつの励行や正しく丁寧な言葉遣いの徹底、規範意識を育む取組を行う。
 - ⇒社会の一員として望ましい人間関係を築き、時と場に応じた行動ができるように。
- ・多様な集団編成（全校・縦割り・期等）による異年齢集団での学び合いを行う。
 - ⇒リーダーシップとフォロアーシップを育み、互いに支え合い高め合う集団づくりを推進する。
- ・対面による行事や活動の振り返り等、自他のもつよさに気づき、認め合う場を設ける。
 - ⇒自己肯定感、自己有用感等の自尊感情を高めさせる。
- ・子どもの主体的・自発的な活動を尊重した児生会活動を行う。
 - ⇒自らの役割を認識して他者と協力し、目的の達成に向かう集団活動の楽しさを実感させる。
- ・毎日の職朝時に子どもに関する情報交換を行う。
 - ⇒子どもの状況や学級実態を的確に把握し、全教職員の共通理解にもとづいた組織的な取組を行う。

◆◇「健やかな体」の育成に向けて ◇◆

【重点目標】

健康安全についての正しい知識を身に付けさせ、正しい判断や自律的な行動により「健康で充実した生活を営もうとする力」を育成する。

【具体的な取組】

- ・年間を通じて子どもが楽しみながら運動に触れることができる行事や取組の企画、活動の場を設定する。
 - ⇒体力及び運動能力の維持向上を目指す。
- ・9年間を見通した系統的かつ計画的な体育学習や運動部活動指導を行う。
 - ⇒自ら進んで運動やスポーツに親しむ資質や能力を身に付けさせる。
- ・子ども自らによる日々の健康観察への取組や各期での計画的な保健指導を行う。
 - ⇒望ましい生活習慣を自ら実践し、自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育む。
- ・9年間を見通した系統的かつ計画的な「性に関する指導」を行う。
 - ⇒性に関する基礎的・基本的な正しい理解と適切な意思決定や行動選択ができる力を身に付けさせる。
- ・保護者参観による薬物乱用防止教室を実施する。
 - ⇒違法薬物に対する子どもの規範意識の向上と強い危機意識を共有する。
- ・計画的かつ多様な状況設定にもとづく自転車安全教室や防災・避難訓練を実施する。
 - ⇒様々な危険から自分を守るための知識と、どのような場においても常に危険を予測し主体的に危険を回避する力および適切に行動できる力を身に付けさせる。
- ・感染症対策を十分に講じながら、多様な集団形態による給食を実施する。
 - ⇒みんなと一緒に食べる喜びや楽しさを味わわせ、自ら進んで食べようとする気持ちを育てる。
- ・給食を生きた教材とした各学年に応じた指導や食に係る児童生徒の委員会活動を行う。
 - ⇒学校教育活動全体を通じて食育の充実を図る。